リエイブルメント型短期集中予防サービス（サービス・活動C）モデル事業実施報告

リハビリデイサービスちづる × 地域包括支援センターのぐち

「してもらうリハビリ」から
「自分の生活を取り戻すための支援」へ

1. モデル事業の概要

～まずは「どんな事業だったのか」をシンプルに～

- 実施事業所：リハビリデイサービスちづる（地域密着型通所介護）
- 期間：7月9日～10月1日（3か月間）
- 毎週木曜日　10:00～12:00
- 利用者：5名（男性2名・女性3名）
  - 要支援1：4名／事業対象者：1名

ポイント
短期集中で「元の生活」への再獲得を支援！



2. 何をするのか？

～直接的なリハビリではなく、面接と生活への働きかけが中心～

① 目標を確認

本人が「できるようになりたいこと」を言葉にする

② 一緒に考える

目標達成に必要なこと・障壁を整理する

③ 自宅で実践

運動、生活上の工夫、家族の協力、環境調整など

④ 翌週に振り返り

できたことを確認し、次の目標へ

セラピストとの面接：約30分　→「何をしてもらうか」ではなく「どう生活するか」を考える

3. 利用者に見られた変化

～最初は戸惑い → 利用を重ねる中で、全員に意欲の向上～

利用当初

- 「リハビリをしてもらえないの？」
- 面接中心の支援への戸惑い・不安

利用を重ねると

- 自分から目標や生活について話す
- 自宅で試してみる行動が増える
- 利用者同士で励まし合う
- 全員にモチベーションの向上

4. ある利用者の「目標」が広がっていった

～目標達成が、次の生活目標を生み出す～

洗濯物を
自分で干したい
→
ゴミ出しに
行きたい
→
友人宅に
行きたい
→
百歳体操へ
行きたい
→
グランドゴルフ
を
再開したい！

支援の例：自宅でできる運動／家族の協力／環境の工夫／階段昇降の動作確認／PCのストリートビューで経路確認

「できた」が自信になり、生活範囲と本人の希望が少しずつ広がった



5. モデル事業を通して感じた効果

事業所と地域包括支援センターが協力し、本人の「元の生活」を一緒に見つけ、伴走する

サービス・活動C 提供事業所

専門職の視点で
目標達成の方法を一緒に考える

→

利用者

「また、できるようになりたい」

←

地域包括支援センター

生活歴や本人の思いを捉え
サービスにつなぎ、支える

情報共有・目標共有・一緒に伴走

**「何をしてあげるか」ではなく、
本人と一緒に「元の生活に戻る可能性」を見つける**

できた経験が次の目標につながり、本人の意欲と生活の広がりを支える

事業所と包括がそれぞれの専門性を持ち寄ることが、リエイブルメントを生活の中で実現する力になる